

## ■ 事業のセールスポイント

- 【次世代見守り】 見守りカメラ・検知器を始めとする多様なIoTインフラによる官民連携の見守りサービス
- 【高齢者の健康】 高齢者のデジタルデバインドと運動不足の解消を目指した遠隔での健康増進サービス
- 【避難行動支援】 防災行政無線の戸別受信機(見守り端末)による要支援者の避難行動支援

## ■ 対象区域の概要

名称	加古川市全域
面積	約 138 km <sup>2</sup>
人口	約 26 万人

### 位置図



## ■ 都市の課題

次世代見守り	✓ 地域防犯活動の維持
	✓ 認知症の恐れのある高齢者の徘徊行動への対応
	✓ 見守りインフラの維持管理
高齢者の健康	✓ コロナ禍の高齢者の外出自粛による運動・コミュニケーション不足の解消
	✓ 自然災害の頻発化、激甚化への対応
避難行動支援	✓ 要支援者の安全で円滑な避難行動の促進と確認

## ■ 解決方法

次世代見守り	✓ リニューアル整備を契機とし3D都市モデルや運用実績等の各種データを活用した、カメラ等の配置・運用見直し
	✓ 筋力等の身体データを測定するウェアラブルデバイスとリモート開催の健康講座を合わせた新サービスの提供
高齢者の健康	✓ 地上デジタル波を活用し、双方向コミュニケーションが可能な防災行政無線の戸別受信機による避難行動の支援

## ■ 運営体制

### かこがわICTまちづくり協議会 (一部メンバー)

【代表】株式会社 日建設計総合研究所 全体統括・成果取りまとめ・見守りカメラ検討
朝日航洋(株)・ESRIジャパン(株) 見守りカメラのモデル作成 等
株式会社 Condense 高齢者の健康増進支援サービス実証
株式会社 フューチャーリンクネットワーク 戸別受信機の開発、データ連携 等
加古川市

外部アドバイザー等
兵庫県
東播磨スマートシティ推進協議会
播磨圏域活性化推進検討会
各分野の専門家
地元機関・団体

助言・協力

## ■ KPI(目標)

施策	評価指標(KPI)例	目標値	目標年次
次世代見守り	1 かこがわアプリのユーザー数	5,000人	R4年度
	2 子育てがしやすいと感じる市民	70%	R8年度
	3 刑法犯認知件数	1,800件	R8年
	4 交通事故発生件数	1,050件	R8年
	5 地域の安全対策への満足度	65.0%	R8年度
高齢者防災	6 高齢者に対する支援への満足度	54.0%	R8年度
	7 地域の防災体制への満足度	66.0%	R8年度
	8 外部機関等とのデータ連携数	25件	R4年度

## ■ 本実行計画の概要(実証メニューのロードマップ)

取組内容	2020	2021	2022	2023	中長期
【次世代見守り】子ども・高齢者の見守りサービス(リニューアル検討)	実装済	基礎検討	本格検討	リニューアル	継続
【高齢者の健康】遠隔環境での健康増進活動支援サービス	開発	試行実証	実証(拡大実証)		実装
【避難行動支援】災害情報伝達手段等の高度化	開発	試行実証	拡大実証	実装	継続

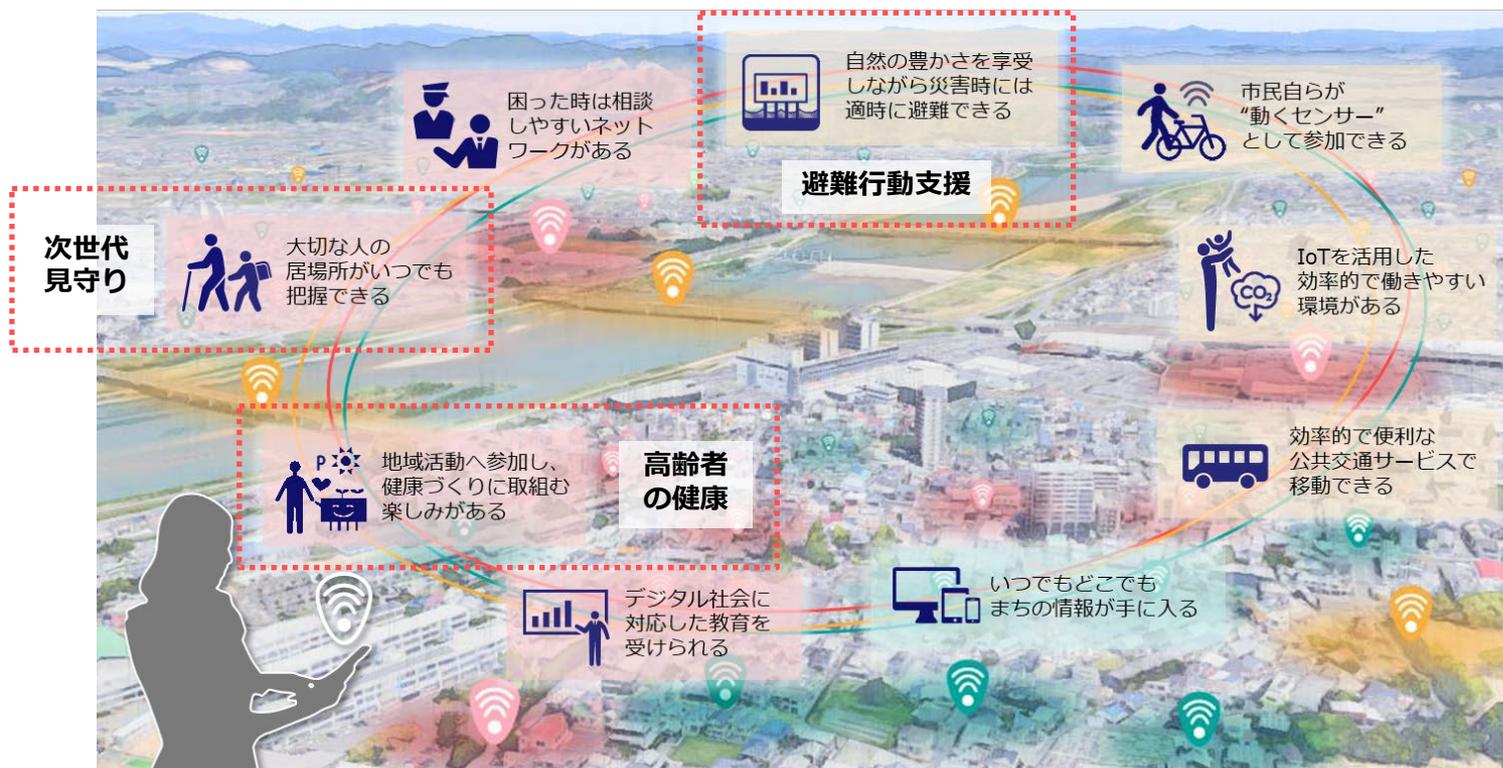
## 誰もが豊かさを享受できる スマートシティ加古川

～「幸せを実感できるまち加古川」の実現に向けて～

【市民】市民のQOLや利便性を向上するサービス

【まち】都市機能の強化や都市課題の解決

【行政】デジタル行政の推進

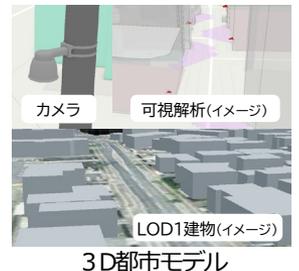


- 【次世代見守り】3D都市モデルや運用実績データを活用した見守りカメラ等の配置・運用の在り方検討
- 【高齢者の健康】身体データの都市OSとの連携／既存の健康講座と連携した実装可能性の検討
- 【避難行動支援】防災訓練における避難行動データの取得、都市OS連携、ダッシュボードでの可視化

### ■ 実証実験の内容

#### 次世代見守りサービスのリニューアル検討

- ✓ 3D都市モデルや運用実績等の各種データを活用し、科学的根拠に基づく最適なカメラ等配置・運用のあり方を考察
- ✓ 3D都市モデルの防災分野における活用可能性を検討



#### 高齢者の健康増進活動支援に係るデータ連携

- ✓ サービス実証により取得した身体データを都市OSに連携
- ✓ 既存の健康講座との連携などによる実装可能性を検討
- ✓ 今後の利用ニーズの把握、サービス改善点等の整理



#### 見守り端末（戸別受信機）による避難行動支援

- ✓ 防災訓練において避難行動データを取得し、都市OSに格納
- ✓ 試験用ダッシュボードで可視化し、避難状況を確認しながら利活用可能性を検討



### ■ 実証実験で得られた成果・知見

#### 次世代見守りサービスのリニューアル検討

- ✓ PLATEAUを活用し、細街路と広幅員道路とで画角を変えることでデータ取得の有効度の変化を確認
- ✓ 上記データを利用し、犯罪データ等と合わせることでより各エリアの傾向を詳細分析できることを確認
- ✓ 幹線道路の交差点付近の見守りカメラは、可視領域内における犯罪発生件数は少ない一方、交通量が比較的多い場所を捉えており、警察による画像確認ニーズも高いことを確認

#### 高齢者の健康増進活動支援に係るデータ連携

- ✓ R2年度のサービス実証で取得した9軸センサーのデータ(ストライド幅、歩行速度、左右バランス、筋力)の集計データをFIWAREに格納し、有識者と意見交換し、データ利活用のポテンシャルを確認

#### 見守り端末（戸別受信機）による避難行動支援

- ✓ タグの機能（ボタンでの情報やり取り、位置情報把握）が正常に動作し、FIWAREを通じてダッシュボードに正確に表示されることにより、避難行動が確認できた。



避難意思・行動可視化イメージ

【次世代見守り】サービスの質の維持・向上に向けて、多機能化も視野に入れたリニューアル検討  
 【高齢者の健康】高齢者でも使用可能なアプリ・デバイスの改修とともに現実的な実装方法を検討  
 【避難行動支援】技術的に可能であることを確認。見守り活動・避難行動支援の実装に向けて検討

## ■ 実証実験で得られた課題

### 次世代見守りサービスのリニューアル検討

- ✓ 固定式の見守りカメラ・タグ検知器はその数が多く維持管理に多大なコストを要するため、最大限に活用すべくデータに基づく運用の改善方法や交通安全、防災など複数分野における活用可能性を模索し続ける必要あり
- ✓ 今回整理したデータ(犯罪発生状況・提供実績)を経年的に分析して定期的に見直しを行う必要あり



小学校区別カメラ設置箇所  
(実証対象区域: )

### 高齢者の健康増進活動支援に係るデータ連携

- ✓ R2年度からの継続課題として、データ収集のためのIoTデバイスに対して、いかに高齢者の理解と協力を得て継続的に取り組める環境を確保するか

### 見守り端末(戸別受信機)による避難行動支援

- ✓ 実装化にあたり、既存の次世代見守りサービスとの連携を図る必要あり
- ✓ BLEタグによる平常時の見守り活動、非常時の避難行動支援について、どの程度需要があるか、市内への普及促進方法について要検討

## ■ 今後の取組:スケジュール

取組	2022	2023	2024~
次世代見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2023年度のカメラリニューアルに向けて検討</li> <li>• 既に実装済みであり、今後のサービスの質の維持・向上(高度化カメラの導入・多目的利用による活用等)に向けて検討</li> </ul>	実装 (リニューアル)	継続
高齢者の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アプリやデバイスを実用に耐えうるレベルへ改修する予定</li> <li>• 現実的な実装の方法を検討するため、市がLINEアプリにて健康増進の取組を提供</li> </ul>	拡大実証	実装
避難行動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 技術的に可能であることを確認</li> <li>• 見守り活動に加え、避難行動支援をオプション機能として具体的に実装に向けて検討</li> </ul>	実装	継続